社会科学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
５校時
学校名　小学校
対　象　第６学年
会　場　教室
授業者　〇〇　〇〇

１　単元名　アジア・太平洋に広がる戦争

２　単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、代表的な文化遺産に着目して、地図や年表などの資料で調べ、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことを考え、表現する。それを通して、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを手掛かりに、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、各種資料で調べ、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを理解している。 ②　我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解している。	①　世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて考え、表現している。 ②　日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを関連付けたり、総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことを考えている。	①　日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて、学習問題やその予想を考えたり、学習計画を立てたりしている。 ②　学習を振り返りながら、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

４　指導観

⑴　単元観

本小単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）社会

> 内容
> ⑵　我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
> ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｻ)　日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。

(ｼ)　遺産や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ)　世の中の様子、人々の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

を受けて、設定した。

⑵　児童観

本学級の児童は、素直で一生懸命であり、社会科に対して苦手意識をもつ児童はいるものの、課題を解決しようとする姿は全ての児童に見られる。また、調べて分かったことや自分の考えを言葉でうまく表現することが苦手な児童や資料を一面的にしか見られない児童もおり、社会的事象を多角的に捉えて自分の考えを表現することについては、繰り返し指導している。これまでペアやグループで話し合わせる機会を多く設けてきた。また人物が活躍する教材用の映像を視聴させるなど、社会科に興味・関心が沸くようにしてきた。戦争に関しては、家族や親族・親戚から戦争の体験を聞くという機会はほとんどなく、戦争があった時代を経て現在の自分たちの生活があるということを意識している児童はほとんどいない。そのため、戦争体験者をゲストティーチャーとして活用し、戦争を学ぶ意義や、伝承していくことの大切さに気付かせていきたい。

⑶　教材観

本小単元では、満州事変から太平洋戦争までを扱う。「つかむ」段階では、銀座の２枚の写真資料から空襲による被害を捉えさせるとともに東京大空襲の被災地域をつかませ、学習問題「日本の戦争はどのようなものだったのだろう」と設定できるようにする。年表を基に学習問題に対する予想を考えさせ、学習計画を作り上げていく。「調べる」段階では、教科書や資料集の資料や記述を中心に、学習計画で立てた「戦争のきっかけ」、「戦争の拡大」、「人々のくらし」、「戦争の終わり」の四つの調べる視点を基に調べるようにする。「まとめる」段階では、単元の学習を振り返り、長く続いた戦争が近隣諸国や国民にどのような影響を及ぼしたかについて、児童自身が自分の考えをまとめられるようにする。

５　年間指導計画における位置付け

	単元名	時数
前期	憲法と政治のしくみ	10 時間
	わたしたちの願いと政治のはたらき	５時間
	大昔のくらしとくにの統一	９時間
	天皇を中心とした政治	８時間
	貴族が生み出した新しい文化	４時間
	武士による政治のはじまり	５時間
	今に伝わる室町の文化と人々のくらし	５時間
後期	戦国の世の統一	５時間
	武士による政治の安定	５時間
	江戸の社会と文化・学問	６時間
	明治の新しい国づくり	６時間
	国力の充実をめざす日本と国際社会	９時間
	アジア・太平洋に広がる戦争（本単元）	７時間
	新しい日本へのあゆみ	８時間
	つながりの深い国々のくらし	７時間
	国際連合と日本の役割	６時間

６　単元の指導計画と評価計画

	目標	○主な学習活動	評価規準（評価方法）
第１時（本時）	日中戦争、我が国に関わる第二次世界大戦の様子や人々のくらしに着目しながら、学習問題とその予想を考えたり、学習計画を立てたりして、学習の見通しをもつことができる。	○　前小単元の振り返りを発表する。 ○　本時のめあてを確認する。 資料をもとに、学習問題とその予想を考えよう。 ○　銀座の空襲前後の写真を比較し、気付いたことを話し合う。 ○　学習問題を立てる。 学習問題　長く続いた戦争は、どのようなものだったのだろうか。 ○　学習問題に対する予想を考える。 ○　学習計画を立てる。 ○　振り返りを書く。	イ－①（発言・ホワイトボード） ウ－①（振り返り）

第２時	日本が中国各地に進出し、満州事変に至る経過と理由を理解する。	○　前時の振り返りを発表する。 ○　本時のめあてを確認する。 日本が中国と行った戦争は、どのようなものだったのだろう。 ○　中国への進出、満州事変について、教科書や資料を基に調べ、ノートにまとめる。 ○　本時のまとめを書く。 ○　振り返りを書く。	アー① （ノート）
第３時	日本が戦争を拡大していった様子や、戦場となった地域などの人々に大きな被害を与えたことを理解する。	○　前時の振り返りを発表する。 ○　本時のめあてを確認する。 戦争は、どのように世界へ広がっていったのだろう。 ○　我が国に関わる第二次世界大戦の広がりについて、教科書や資料を基に調べ、ノートにまとめる。 ○　本時のまとめを書く。 ○　振り返りを書く。	アー① （ノート）
第４時	聞き取りや手記などの資料を活用して、戦時体制について調べ、戦争中の子供や女性の生活の様子を理解する。	○　前時の振り返りを発表する。 ○　本時のめあてを確認する。 人々のくらしはどのように変わっていったのだろう。 ○　戦時中の生活への影響について、教科書や資料を基に調べ、ノートにまとめる。 ○　本時のまとめを書く。 ○　振り返りを書く。	アー① （ノート）
第５時	兵士以外にも多くの国民が戦争の犠牲になったり、家を失ったりしたことを理解する。	○　前時の振り返りを発表する。 ○　本時のめあてを確認する。 空襲により、日本や国民はどのような被害を受けたのだろう。 ○　空襲によって日本や国民が受けた被害について、教科書で調べ、ノートにまとめる。 ○　戦争体験者のインタビューを聞く。	アー① （ノート）

		○　本時のまとめを書く。 ○　振り返りを書く。	
第６時	沖縄戦や広島、長崎への原爆投下により、多くの人々が犠牲になって終戦を迎えたことを理解する。	○　前時の振り返りを発表する。 ○　本時のめあてを確認する。 戦争は、どのようにして終わったのだろう。 ○　沖縄戦や原爆投下、終戦の様子について、教科書で調べ、ノートにまとめる。 ○　本時のまとめを書く。 ○　振り返りを書く。	ア－② （ノート）
第７時	これまで調べきたことを文章にまとめ、学習問題を解決することを通して、中国への進出をきっかけに戦争が拡大したこと、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことを理解する。	○　前時の振り返りを発表する。 ○　本時のめあてを確認する。 学習問題に対する自分の考えをまとめよう。 ○　学習計画をもとに、これまで調べてきた事実を班ごとに整理する。 ○　学習問題を解決する。 日本は経済の不況により、中国へ進出した。満州事変をきっかけに日中戦争へと発展し、太平洋戦争をきっかけにアメリカを中心とする連合国と戦争が行われた。日本各地で空襲による被害を受けたり、多くの国民が亡くなったりした。原爆により多くの命が失われ、日本はついに降伏し、戦争が終わった。 ○　振り返りを書く。	イ－② （発言・ホワイトボード） ウ－② （振り返り）

7　指導に当たって

２班　第３期テーマ「主体的な学びを持続させる、問題解決的な学習の設計」

【テーマに迫るための手だて】

⑴　解決しようという意欲を芽生えさせる手だて

⑵　解決しようとする意欲を持続させる手だて

①　その都度意欲をもたせる。

②　つまずきを回避させる。

③　学びを調整させる。

⑶　問題解決を実感させる手だて

①　振り返りの活用

毎時間、授業の導入で、中心概念に迫る児童の振り返りを発表するようにする。常に学習問題を解決するためにつながるような振り返りを発表することで子供たちの解決しようとする意欲を持続させる手だてとする。

②　学習問題を立てる際の工夫

1920 年代と 1945 年時の銀座の写真を提示することで、空襲によって街並みが大きく変わったことを理解するようにする。さらに東京の被災地図を提示することで、東京全体に大きな被害が出たことを空間的に捉えさせたり、半年間で 100 回を超える空襲の数に着目させたりすることで、学習問題「戦争はどのようなものだったのだろう。」を児童の思いを引き出しながら設定していく。

③　予想を考えさせる工夫

学習問題について予想を考える際、年表に記載されている社会的事象に個人でアンダーラインを引くようにする。その後、４人グループでどうして線を引いたのか理由を話し合うことで学習計画の調べる視点につなげていく。

④　戦争体験者のインタビュー

足立区内で起きた戦時下の街の様子や空襲体験を、戦争体験者へのインタビューを通じて学習問題の解決を図る。教科書や資料だけではなく、実際に戦争を経験した方への思いを聞くことで、問題解決を実感させる手だてになると考えた。

８　本時（全７時間中の第１時）

⑴　本時の目標

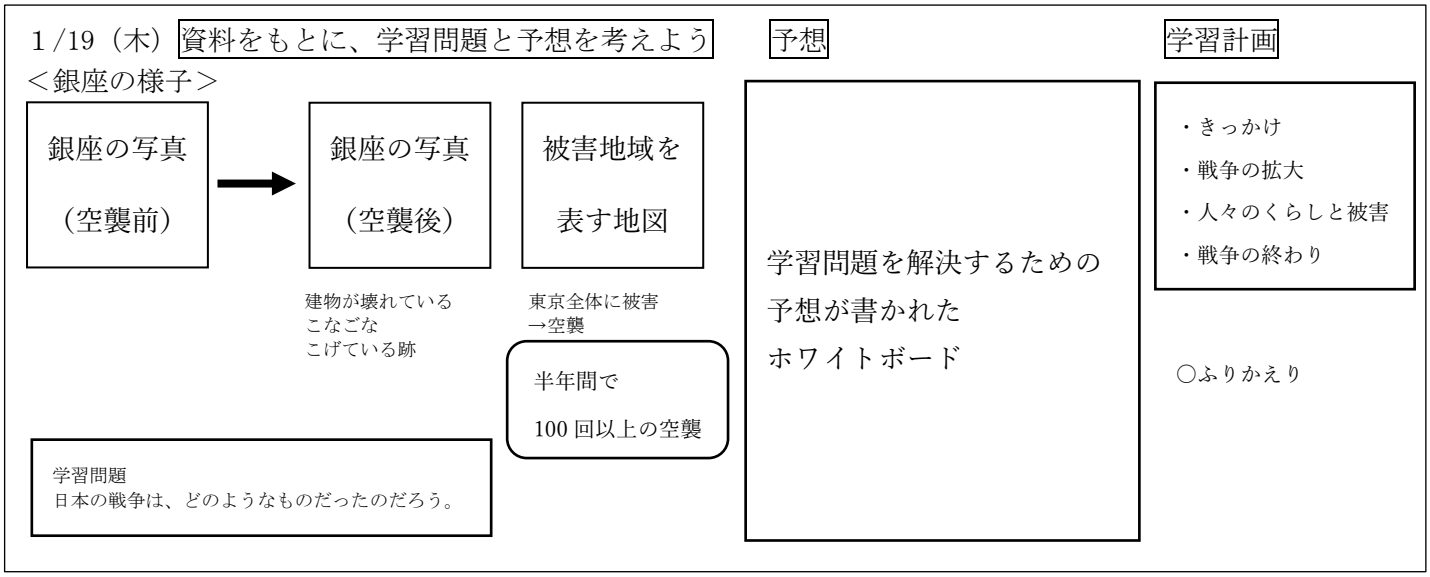
日中戦争、我が国に関わる第二次世界大戦の様子や人々のくらしに着目しながら、学習問題とその予想を考えたり、学習計画を立てたりして、学習の見通しをもつことができる。

⑵　本時の展開

時間	○学習活動　・主な児童の反応	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 ３分	○　前小単元の振り返りをする。 ○　本時のめあてを確認する。 資料をもとに、学習問題と予想を考えよう。		
展開 37 分	○　空襲前と空襲後の写真を比較して、気付いたことを話し合う。 ○　学習問題をつくる。 学習問題 長く続いた戦争は、どのようなものだったのだろうか。 ○　学習問題に対する予想を考える。 ・　世界中が不景気になり、生活に苦しむ人々が多くなったことから、他の地域を攻めようと考えた人がいて戦争が始まったのではないかと思う。 ・　空襲が激しくなったことで都市部にはいられなくなったから地方に逃げたと思う。 ・　アメリカ軍が日本の国土に上陸したり、原子爆弾を落としたりしたから日本は降伏したと思う。	・　被災地図を提示したり、半年間で 100 回を超える空襲の数を示したりすることで東京全体に被害が及んだ事実をつかむ。 ・　日中戦争、我が国に関わる第二次世界大戦の様子についての年表を根拠として、予想を考えられるようにする。 ・　年表の中で、学習問題の解決につながりそうな社会的事象にアンダーラインを引かせ、話し合い時に根拠をもって説明できるようにする。 ・　４人グループで予想を考え、ホワイトボードにまとめていく。	イ－①　日中戦争、我が国に関わる第二次世界大戦の様子や人々のくらしに着目して、問いや予想を見いだしている。 （発言・ホワイトボード）

	○　学習計画を立てる。 ①　戦争のきっかけ(始まり) ②　戦争の拡大 ③　人々のくらしと被害 ④　戦争の終わり		
まとめ ５分	○　本時を振り返る。 ＜児童の振り返りの例＞ 「今日の予想で、日本は、戦争を他の地域へと拡大していったけれど、最終的にはアメリカ軍に降伏したのではないかと考えました。これから戦争がどうやって終わったのかを調べていきたいです。」	・　めあてに対して「考えたこと」「友達との学び」についての視点で、振り返りが書けるように個別指導する。	ウ－①　予想をもとに調べる事柄を決め、解決の見通しをもっている。 (振り返りの記述)

⑶　板書計画



⑷　授業観察の視点

ア　学習問題とその予想を考える資料は適切であったか。

イ　年表の読み取りやグループでの話し合いは、児童が学習問題に対する予想を考える上で適切だったか。